

令和元年度第1回新潟市北区郷土博物館協議会 会議概要

日 時：令和元年10月25日（金） 午後3時～5時

場 所：新潟市北区郷土博物館 集会室

出席委員：9名

阿部紀夫、石川明子、大月優子、小島勝治、小林久哉、里村洋子、
島 吾郎、武仲浩美、本井晴信 (五十音順、敬称略)

欠席委員：1名

谷 哲夫 (敬称略)

傍 聴 者：なし

事 務 局：(北区郷土博物館) 木村隆行館長、神田直子主査 (学芸員)、
曾部珠世非常勤嘱託 (学芸員)

(北区地域総務課) 参宮直樹課長 (副区長)

資 料：当日配布 (別添)

会議概要

1 開会

(司会)・・・・・・・・・・・・・・・・・・神田直子

ただいまから令和元年度第1回新潟市北区郷土博物館協議会を開催します。

本日は委員9名が出席され、会議は成立しています。

傍聴者はありません。

2 あいさつ・・・・・・・・・・・・・・・・ 木村隆行 館長

本日は、お忙しいところご出席いただきまして、ありがとうございます。今回は、協議会委員の改選後、初めて開く協議会ですが、委嘱日の4月1日から、半年経ってしまいました。少し早い時期に開催したかったのですが、事業の関係で、本日ようやく開催することが出来ました。どうぞよろしくお願い致します。

3 委嘱状の交付、及びあいさつ・・・・・・・・ 参宮直樹 北区地域総務課長 (副区長)

- ・平成31年4月1日付で委嘱した新委員に委嘱状を交付。
- ・あいさつ

今年の4月に副区長に着任した参宮です。北区地域総務課長を兼務しております。皆様におかれましては、日頃から当館の運営につきましてご尽力をいただき、御礼申

し上げます。皆様には4月1日に協議会委員に就任していただいておりますが、会議の開催が遅れ、委嘱状の公布が遅れましたことを、お詫び申し上げます。本日は、どうぞよろしくお願い致します。

4 新会長・副会長の選出

進行・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・木村隆行 館長

- ・各委員の自己紹介
- ・職員紹介
- ・会長・副会長の選出
- ・会長に島吾郎委員、副会長に里村洋子委員が、満場一致で選出される。

5 新会長・新副会長あいさつ

(島会長) 北区は松浜地区と豊栄地区から成っていますが、自然的にも歴史的にも一体の運命共同体だと思っています。先日の大水の時に、新井郷川の大排水機場を見学させていただき、改めてそれを実感した次第です。時には厳しい意見を申し上げるかもしれませんが、北区の皆さんに親しまれる博物館のための応援団の役割を果たしていきたいと思えます。先輩が大勢いらっしゃるなかで大変恐縮ですが、ぜひともご協力をいただきたいと思えます。どうぞよろしくお願い致します。

(里村副会長) 引き続き博物館のことを勉強させていただきながら、応援団として皆さんとご一緒させていただければと思っています。どうぞよろしくお願い致します。

6 議事

(司会) 島会長から議事の進行をお願い致します。

(島会長) では早速、議事に入ります。まずは会議次第の議事(1)新潟市北区郷土博物館の概要について、博物館から説明をお願いします。

(1) 新潟市北区郷土博物館の概要について

(木村館長) 資料1「新潟市北区郷土博物館 概要」に基づいて説明

1. 基本構想(活動趣旨、テーマと機能的役割、事業(常設展示、企画展示、普及活動、収集・保存、調査・研究)について説明。
2. 施設の概要(本館、横井の丘ふるさと資料館(分館)、郷土資料収蔵庫について説明。
 - ・横井の丘ふるさと資料館が耐震の問題で現在休館中であることを報告。

3. 新潟市北区郷土博物館収蔵資料について説明。
4. 新潟市北区の県指定・新潟市指定文化財について説明。
5. 新潟市北区の国登録有形文化財について説明。
6. 新潟市北区郷土博物館関係法律・条例・組織規則等について説明。

(島会長) ただいま「新潟市北区郷土博物館の概要」を説明していただきましたが、ご意見、ご質問はありませんか。また、新任委員の方からご感想などをいただけるとありがたいです。

【発言等】

(本井委員) 私がこの博物館を訪れたのは、豊栄町の木造の旧庁舎を利用した時代でした。部屋に「保存展示」という形で資料が沢山並べられていたし、歴史資料も整理が進められていて、これから「博物館」として形をなしていくのだということが感じられたものでした。

(石川委員) 濁川小学校の地域教育コーディネーターの仕事をしております。住まいも(新潟市の)旧北地区で、豊栄はこれまで馴染のないところでしたが、これから勉強させていただきたいと思います。

(武仲委員) 長岡地域で、民具整理、基礎データ作りや展示の手伝い、あるいは民俗関係のプランニングなどを行っているのですが、こちらの博物館の郷土資料収蔵庫で民具のクリーニングのアルバイトをさせていただいたこともあります。ただ、本館の方には足を運ぶ機会が少なく、これから勉強していきたいと思います。

(2) 平成元年度前期の新潟市北区郷土博物館事業報告について

(神田) 「平成元年度前期の事業報告」を資料2(pp. 1-15)に基づいて説明する。

(島会長) ただいま令和元年前期の事業報告を説明していただきました。非常にボリュームのある事業内容だと思います。そしてまた、企画展だけではなく、外部からの要請で講師を務めるなど、さまざまなことをやっておられます。ご意見、ご質問を頂戴したいと思います。

【質疑応答】

(本井委員) 「北区こども科学展」は、北区の子どもたちにとって毎年の夏休みの自由研究の発表の貴重な場だと思うのですが、このような事業は、新潟

市でも随分昔からやっていたように思います。毎年実施しているけれど内容の継続性がなく、どうも形式的にやっているように感じ、その場かぎりで終わってはもったいないと思いました。特に自然観察や標本などは、データを記録しておけば、将来的に活用できる資料になるのではないかと思います。

(島会長) 「北区こども科学展」は、夏休みの宿題の発表の場を博物館が提供しているということだと思います。本井委員の発言にありました「観察記録などの内容を記録してデータ化する」ということになりますと、それは果たして博物館が行うべきことなのか。それとも小中学校の理科の先生や、北区あるいは新潟市の理科教育研究会というようなところで行うべきことなのか、という議論が出てくるように思われます。

(小林委員) 私が勤務している葛塚東小学校は、博物館の向かいにありますので、気軽に利用させていただいています。3年生社会科の「ふるさと学習」、4年生は福島潟の学習としても博物館を利用させてもらっています。グループ学習でもお世話になりました。また、松蔭賞書道展もずっと参加させていただいています。「北区のこども科学展」にも、出品させていただいております。毎年開催されていますので、これを目標にがんばっている子どももいます。市小研は各教科に分かれて、新潟市で毎年開催している理科展もここが中心となって行っていますが、記録し、データを収集するというところまでは至っていません。

(本井委員) 催しそのものを全部記録するというのではなく、成果の一部が利用できればそれでよいと思います。博物館の存在というのは、かつては豊栄、今は新潟市北区ですが、その「記憶の装置」だということを意識していただきたい。そういう場として考えていただけるとよいと思います。

(大月委員) とても忙しいなかで、これだけの事業をやられているのに驚きました。こうしたなかで、博物館の職員が、夜間にもかかわらず木崎のまつり取材に来て下さっていて、嬉しく思いました。

(島会長) 松蔭賞書道展、こども科学展は、児童数が減っているのに、出品数も上昇傾向にあり、入館者数も増えていますね。

(木村館長) 小中学校の校長会で説明させていただき、ご協力をお願いしています。

(島会長) 「昭和の暮らし展」は、前年度から今春にかけてロングランで開催していますが、大変よい企画でした。NHKにも取り上げられて周知され、本当によかったです。

(里村副会長) 「昭和の暮らし展」は毎年テーマを決めて行われていますが、「食べる」とか「着る」といった切り口でそれを集中的にみせるという企画は大変におもしろいと思いました。江戸時代の道具といった歴史的なものではなく、もう少し近い時代だからこそそのよさがあります。

(3) 令和元年度後期の新潟市北区郷土博物館事業計画について

(神田) 「令和元年度後期の事業計画」を資料2 (pp. 16-17) に基づいて説明する。

(島会長) ただいま令和元年度後期の事業計画を説明していただきましたが、ご意見、ご質問はありませんか。

【質疑応答】

(阿部委員) 『50周年記念誌』は、是非発行してもらいたいと思っています。これまでは『常設展示17年のあゆみ』、それから『40周年記念誌』とそれぞれ立派なものが作られています。予算的にも厳しくなっているかと思いますが、『50周年記念誌』はどのようなものが出来るのでしょうか。

(木村館長) 『40周年記念誌』と同様に考えています、これまでの10年間の事業報告、資料編(博物館要覧)、そして紀要編を備え、ページ数もほぼ同じ、通常予算で作成する予定です。

(阿部委員) 『40周年記念誌』の掲載論文(寄稿論文)は、非常に中身が充実していて、過去・現在そして未来を展望していく素晴らしいものでした。今回は、それを超えるような記念誌を作っていただきたいです。例えば、「木崎村小作争議についての顕彰運動のあゆみ」といった視点から書かれた論文はないので、そういうものを載せてもらいたいと思うのですが。寄稿していただくか、あるいは論文を公募してもよいのではないかと思うのですが、いかがでしょうか。

(木村館長) 『40周年記念誌』に寄稿して下さった先生方の論文は大変立派なもので、それには及ばないかと思いますが、『50周年記念誌』は、これまでの10年間の博物館活動のなかからテーマを設定して、職員を中心として執筆・作成する「紀要」を計画しています。
木崎争議については、後で説明させていただく予定でしたが、木崎村小作争議100周年にむけて企画展を考えております。その機会に論文の寄稿や講演会なども考えております。

(阿部委員) 『40周年記念誌』に北辰隊をテーマとした論文がありますので、今回は、北辰隊の他に、北区の戊辰のもう一つのテーマである松浜に滞陣した西郷隆盛についての文章を小島先生に依頼されたらいかがでしょうか。

(木村館長) 貴重なご意見として承りました。

(4) その他

(島会長) それでは最後の議題で、「その他」として事務局の方からお願い致します。

(木村館長) 資料3は、自治協議会に報告した資料で、来年度の北区の「特色ある区づくり事業の提案状況について(案)」です。当館としては来年度から3か年事業として「木崎村小作争議100周年事業」を「区づくり事業」として提案しています。
当館では豊栄市時代から木崎村小作争議関係の資料を収集してきましたが、小作側からの資料が中心ですので、100周年に向けて、地主側の資料の調査も進めていきたいと考えています。また、この展示に向けて文化財の修復も行う予定です。

(島会長) これは区づくり事業の「案」の段階であり、これが当該事業としての予算がつくかどうかは未確定ということですが、博物館としてはこれに取り組んでいくという方針だということですね。ぜひ、実現させてほしいと思います。
最後になりますが、発言したいという方はいらっしゃいますか。

(本井委員) この博物館は「収集活動」を通して、「何を収蔵してきているのか」、それが博物館の活動のどのようなベースになっているのか、そしてその活動をどう展開させていくのか。そういうことを、市民に周知していく必要があると思います。そして、それは「これからわれわれは何を遺していかなければならないのか」という市民への啓発につながっていきます。

(小島委員) 私は、博物館が所蔵する美術作品を公開するという企画展「人間はどこにいる？」を拝見し、作品鑑賞会にも参加させていただきました。こういうことを通して、この博物館が素晴らしい美術品を持っていることを改めて感じた次第です。今回は12点の展示でしたが、その20倍以上の作品を所蔵しているようです。これからも、市民のために美術の所蔵作品を公開する企画展を続けていってほしいと思います。

(島会長) これで議事を終了します。

7 閉会

(司会) 島会長、ありがとうございました。委員の皆様、長時間にわたりご審議をいただきありがとうございました。予定の時刻を過ぎてしまいましたが、ご希望の方々には、館内をご案内いたしますので、お残りくださいますようお願い致します。